

FLORA of KOCHI

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

No.54

探してみよう！ 秋編

テイショウソウ（キク科）

Ainsliaea cordifolia Franch. et Sav.

テイショウソウはキク科の多年生草本で、日本では本州（千葉県～近畿地方）・四国・九州（北部）に分布します。高知県では西部で自生地が確認されており、そのほか安芸市、香南市、日高村においても標本が採集されています。林縁からやや暗い林床に生え、葉は茎の下部に集まってつき、カンアオイのような白い模様（雲紋）が入るのが特徴です。

三原村の自生地では動物による食害を受けていたため、森林環境税を利用して2010年に柵が設置されました。人間環境大学の藤井伸二准教授によれば、県外においても食害によってわずか2年半の間になくなってしまったところがあるそうです（右写真）。

花冠は線形で白色、総状に茎について咲く様子は線香花火のようです（右下写真）。シカの食害に遭っている自生地がありましたら植物園までご一報を。



2022/5/19



2024/10/15

写真 兵庫県宝塚市の自生地の様子（藤井伸二准教授提供）

左側の写真で葉に斑のあるのがテイショウソウ。2022年には群生していたが、2024年には全くみられなくなった。白矢印の先のアオキが同一個体。

表 高知県に生育するモミジハグマ属植物の区別

特徴（検索キー）	開花期（月）	学名・和名	高知県RDB
・葉は切れ込まない ・葉柄に褐色の長毛を密生する	11-12	<i>Ainsliaea fragrans</i> マルバテイショウソウ	CR (環:VU)
・葉には切れ込みがある ・葉柄には褐色の長毛を密生しない	9-10	<i>A. apiculata</i> キッコウハグマ	
・葉は長さ1-3cm ・瘦果は有毛	9-10	<i>A. acerifolia</i> var. <i>acerifolia</i> モミジハグマ	
・葉は長さ6-16cm ・掌状に深く切れ込む	9-10	<i>A. cordifolia</i> var. <i>cordifolia</i> テイショウソウ	EN
・卵状ほこ形 ・雲紋有	9-11	<i>A. cordifolia</i> var. <i>maruoi</i> ヒロバテイショウソウ	EN
・広卵形 ・緑色	9-11		



夜須町 2018/11/5

【参考文献】

藤川和美. 2009. モミジハグマ属. In: 高知県・高知県牧野記念財団（編）. 高知県植物誌 p. 467. 高知県・高知県牧野記念財団. 高知県.
米倉浩司. 2017. モミジハグマ属. In: 大橋広好・門田裕一・木原浩・邑田仁・米倉浩司（編）. 改訂新版日本の野生植物 5 pp.209-211. 平凡社. 東京.



高知県の植物 ニュース

本号では、石鎚山系でのニホンジカの食害拡大を受け、5月にキレンゲショウマ自生地に防鹿柵を設置しましたのでご報告します。また、5月末で終了したタンポポ調査・2025高知県の結果の一部をご紹介します。

1. キレンゲショウマ自生地での防鹿柵設置

文・写真：前田綾子

石鎚山系では10年程前からニホンジカの食害が進行・拡大してきており、国や県などによって調査やデータの解析が進められています。昨年とうとう高知県側のキレンゲショウマ自生地で、ニホンジカによる被食がカメラで撮影されました。

県境における食害は1990年代の終わりごろ西部の四万十市黒尊に始まり、東部の香美市三嶺では2004年頃から深刻化してきています。条件によっては2～3年で林床の植物が消失することがあるため、早急な対策として防鹿柵の設置が必要でした。しかし防鹿柵の資材は全部で約100kg。自生地は登山口から徒歩で2時間程度、原始的な森林に覆われているため、ヘリコプターやドローンでの資材運搬は物理的にも金銭的にも難しい場所です。人力で資材を運搬するなら、力持ちを探すか、多数の人を集めるかどちらかです。そこで、これまでも様々な保全活動にご協力いただいていた高知大学の比嘉基紀先生に相談したところ、学生さんたちにご協力いただけることになりました。



写真1-1 キレンゲショウマ



写真1-2 ニホンジカに食害された個体



写真1-3 防鹿柵資材の運搬

当日は、比嘉先生と学生さんをはじめ、分布調査ボランティア、三嶺の森をまもるみんなの会、石鎚山系の自然を愛する方々、日本山岳会会員、高知新聞記者、いの町・愛媛県・高知県の職員含め合計39人が集まり、2時間半かけて資材を運搬し、一部の方には柵の設置までお手伝いいただきました。ご協力いただいた皆さま、ありがとうございました。

今回自生地全体を防鹿柵で囲うことはしませんでした。設置2ヶ月後に状況を確認しに行ったところ、柵の外の草花には食痕があり、周辺にニホンジカが生息しているのは確実です。さらに食害が進行した場合には、防鹿柵の拡大が必要になります。もし登山道沿いから見える範囲でキレンゲショウマが食害されているようでしたら植物園までご連絡ください。なお、柵を設置しているところは岩が多く、加えて視認しづらい黒いロープが使われているところがあります。転倒のおそれがありますので近づかないようにしてください。



写真1-4 ボランティアによる防鹿柵設置

2. タンポポ調査・2025高知県 調査終了

文・写真：田邊由紀

2024年2月にスタートし、2年に亘って行われたタンポポ調査が今年5月末で終了しました。今回の調査も多くの方々にご参加・ご協力いただき、誠にありがとうございました。

今年はシロバナタンポポの開花が遅く、3月に入ってもようやく咲き始めるという例年とは異なる開花状況であったためか、2～3月は予備調査の4割程度しか集まりませんでした（図1）。結果として、予備・本調査を合わせ、1,060人の方々にご参加いただき、13種類のタンポポ属植物、8,996サンプル（無効データ・タンポポ属でなかったものを除く、図2）が集まりました。

タンポポ調査は、西日本の19府県が一斉に調査した「タンポポ調査・西日本2010」から始まり、今回で4回目となることから新しい発見はないか

もしれないと考えていました。しかし、仁淀川町でキビシロタンポポが、また宿毛市沖ノ島でシロバナタンポポ（写真5）が確認されるなど新たな知見が得られました。また、在来総苞型外来種、ヤマザトタンポポやキビシロタンポポなど、確認地点数が増加した種類もありました（図3）。今後は得られたデータを解析し、報告書をまとめます。2026年3月22日には報告会を開催、報告書を発行する予定ですので、乞うご期待ください。

なお、採集サンプルのデータや各地域のタンポポ採集地図は、特設ページでご覧いただけますので、是非ご活用ください。

QRコードでアクセス→

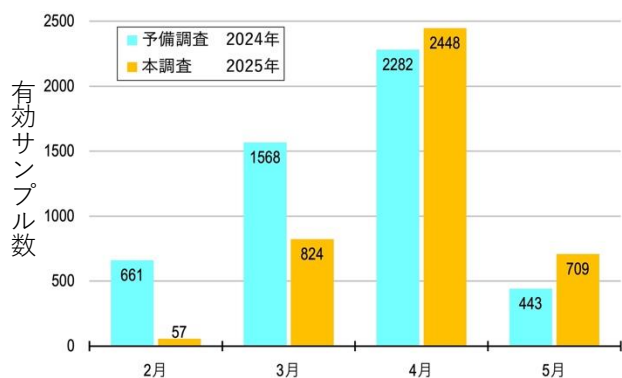


図1 調査期間中のサンプル数（日付不明4件除く）

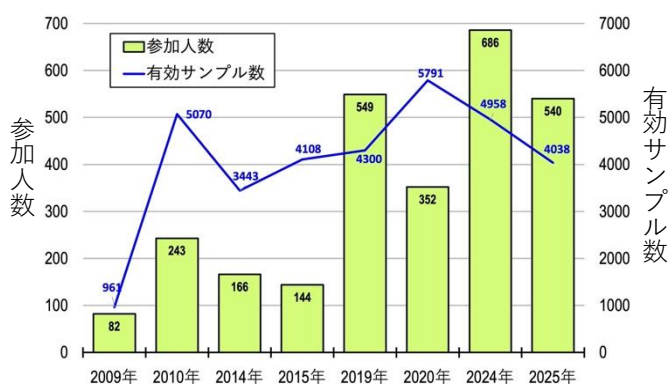


図2 これまでの参加人数とサンプル数



写真2-1 沖ノ島で確認されたシロバナタンポポ

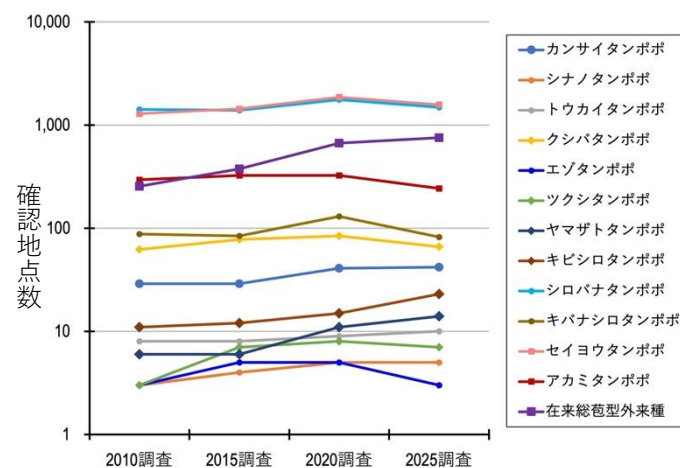


図3 確認地点数の推移

★令和7年度開始 地域チーム活動

野生植物分布調査も5年目を迎え、調査手法などを身につけた方が増えたことを受け、今年度から調査の自由度をあげるため、希望の市町村で活動するチームを立ち上げていただき、その活動の支援をしています。

まだ自信がない・・・という方は事務局主体の重点調査市町村での調査にご参加ください。今年度からはWebで全地域の調査日が確認でき、調査や研修会への申込みもWebでできるようになっています。

チームメンバーを決める（3人以上）

メンバーを事務局に連絡

※追加可能人数をお知らせください（追加不可でもOK）

- 調査対象市町村の採集済リストと未採集リスト、チーム名の入った腕章を送付いたします。
- 事務局職員の同行をご希望の場合には1か月前をめどにご連絡ください。

■ 令和7(2025)年度下半期 分類学セミナー・研修会などのお知らせ

下半期は次のとおりセミナー・研修会を開催します。参加ご希望の方は、資料の準備などがありますので事前にホームページあるいはお電話でお申込みください。冬季は調査がお休みになる地域が多いので、ぜひ研修会にご参加ください。

【申込先】HP: <https://makinofok.jp>
メール: floraofkochi@makino.or.jp
電話番号: 088-821-8739
(事務局直通、土日祝日を除く9-17時)
FAX番号: 088-882-8635 (代表)

分類学セミナー

■ ネコノメソウのなかま

2026年2月1日(日) オンライン同時開催

講師: いがりまさし氏 (自然系映像音楽作家)

場所: 牧野富太郎記念館 本館 アトリエ実習室

定員: 40名

時間: 10:00~12:00

内容: 高知県に分布するネコノメソウ属の区別点の解説。未発見でも見つかりそうな種類を紹介。

※本館の屋根工事中につき、会場が変更になる可能性があります。



ナルトサワギク・ウチワサボテン 防除活動参加者募集

11月12日(水) 10:00~12:00

申込締切: 11月7日(金)

集合場所: 芸西村琴ヶ浜 和食川河口臨時駐車場

※ご参加いただける方は事務局までご連絡ください。

※小雨決行・荒天中止

タンポポ調査・2025高知 調査報告会

2026年3月22日(日)

参加条件はありません。

※高知市内の施設で開催予定。

※時間と会場は現在調整中です。



屋外研修会

落葉樹木研修会

10月11日(土) 工石山(土佐町)

時間: 12:30~15:00 定員: 12名

内容: 特徴を観察し、20種類覚えることが目標です。

※集合場所はお申し込み後にご連絡いたします。

常緑樹木研修会

12月13日(土) 高知市五台山

時間: 9:30~12:30 定員: 12名

内容: 特徴を観察し、30種類覚えることが目標です。

屋内研修会

標本作製研修会

11月29日(土) 横倉山自然の森博物館

時間: 10:00~12:00 定員: 6名

11月30日(日) 土佐町郷土学習センター

時間: 10:00~12:00 定員: 6名

内容: 標本ができるまでの一連を体験します。

- ・新聞に挟むときのコツ
- ・自宅での乾燥方法
- ・新聞に挟んだ状態の植物の同定
- ・専用の機器を使った台紙への貼付

※できるだけご自身で作製した標本をお持ちください。
※希望人数によっては午後も開催します。

■ 高知県の植物に関する問い合わせ

平日の9時から16時半まで対応します。押し葉標本等の持ち込みについては、職員が不在の場合がございますので、メールあるいは電話にて事前連絡をお願いいたします。

野生植物に関する全般の問い合わせは、月・水・金の16時から17時の間に植物園の植物相談の窓口(電話)で受付しています。分布調査の電話番号とは異なりますのでご注意ください。

■ 編集後記

本号では、石鎚山系のクレンゲショウマ自生地への防鹿柵設置と5月に終了したタンポポ調査についてご報告しました。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。